

I-1: 研究広報

開催日時・会場 9月17日(木曜日) 10:30 - 12:00 会場A

情報過多時代における市民と大学の距離を近づける広報戦略

研究内容の発信は、その研究を応援してもらう(ファンディングする)には欠かせない手段の一つである。そのためには、大学が行う研究内容を発信し、①見つけてもらう、②理解してもらう、③応援したいと思ってもらう、④応援(ファンディング)してもらう、⑤応援を続けてもらうという大きく分けて5つのステップを経る必要がある。情報にあふれた現代では、そもそも大学が発信する情報を見つけてもらうという1つ目のステップを踏むことすら難しく、情報量は今後も飛躍的に増加していくと考えられる。そのためには、大学の効果的な情報発信を行い、人々との接点を増やしていくことが必要である。情報過多時代において、大学をより身近に感じてもらい、応援してもらえるような関係性を構築する広報戦略について検討し、公的資金、民間資金、個人資金などによるファンディングにつなげていきたい。

本セッションでは、公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団の渡邊文隆氏から、研究費や寄附金を集めるにあたっての事例を紹介いただくとともに、higher educationにおける広報戦略やファンドレイジング手法についての先行研究について話題提供していただき、参加されている皆さんと今後の研究広報の在り方について議論していきたいと考えている。研究内容に寄らない確かな広報技術をURAが身に付け、研究力強化につながる新しい方向性を見出す契機にしていきたい。

セッション担当者



小林 湊太: 信州大学 学術研究・産学官連携推進機構
助教(URA)

2019年早稲田大学大学院環境エネルギー研究科博士後期課程修了。博士(学術)。専門は教育工学。意欲や主体性を引き出す教育方法について研究を行ってきた。前職は私立学校にて技術、情報科の教師および営業広報主任。2018年より現職として、文系担当のURAとして活動中。

登壇者



渡邊 文隆: 公益財団法人 京都大学iPS細胞研究財団
社会連携室
室長

公益財団法人京都大学iPS細胞研究財団 社会連携室長として、寄付募集活動に従事。専門はファンドレイジング(寄付募集活動)、非営利組織のマーケティング。大学卒業後、民間企業でのマーケティング担当を経て、2013年に京都大学iPS細胞研究所へ着任、寄付募集活動を行う。2020年4月から現職。現在、職務の傍ら京都大学経営管理大学院 博士後期課程(専攻:経営科学)に在籍。



三宅 誠司: 信州大学・学術研究・産学官連携推進機構
助教(URA)

2008年鳥取大学大学院連合農学研究科修了。博士(農学)。2019年2月より農学部担当として着任。研究者としての道を目指すも諸事情により進路変更。それまでの経験を活かし、支援する立場から研究に携わることを決意。研究者・事務系職員と一丸となって基礎研究から社会実装までを伴走できるURAを目指し、プレアワード、産官とのネットワーク構築を中心に、ラボ系・フィールド系を問わず研究の面白さを日々実感しながら活動中。